

自分自身が出来るような被災地の農業再生について

自分が取り組める農業復興支援は何だろうか。

私は溝口先生の手記「原発事故後、いかに行動したか」を読んだ。最も印象的であった点は、私が思っているよりもはるかに多くの範囲に対して除染作業を行わなくてはならないという点だ。農業再生と聞いて、山に存在する放射能の除去が必要となるなど全く思いもよらなかった。専門家ではない私にとって、山の放射能除去のための機械や仕組みを考えるのは難しいことかもしれない。しかし、自然の中の水の流れや食物連鎖などを鑑みて、農地に影響を及ぼす可能性のある、つまり放射線除去が必要となる地域がどこなのか、考えることは出来るだろう。また、農学部内に在籍し、多くの農学部の授業を履修している今、そうやって考えたことを話す相手は教授や先輩などたくさんいると思う。アドバイスをもらえれば、将来的にそういった専門性を高めて被災地の復興支援に役立てるかもしれない。

またこの文章を読んで、マスコミが日頃から農学や土壌の分野に関して関心が薄いという問題点にも気付かされた。たしかにテレビで医学の話題は出る。最先端の工学技術についての記事も多くあると思う。しかし、農業や土壌学は私たちが生きていく上で必要不可欠な学問であるにも関わらず、その他の学問に比べて都会に住む私たちの日常からかけ離れている。そのためか、あまり注目されることも多くはないだろう。しかし、学問はすべての分野で繋がっている。農業に関する技術や機械には工学分野が付きまとうし、放射能汚染はそれこそ医療問題に直結する。農作物が社会に流通すれば、経済的な側面からの意見も必要となるだろう。様々な分野の専門家と話してその観点から農業を見れば、多くの人に農業について考える機会を持ってもらうことが出来るだろう。私個人の力はほんのわずかなものだが、人から人へと輪が広がっていけば、人々の農業問題への理解や関心、ひいては被災地の農業復興支援に携わりたいという人の増加に繋がり得るだろう。

ありふれてはいるものの、ボランティアに参加するというのも良い手だと思った。

被災地の農業従事者にとって、ただでさえ昨今の高齢化で人手が足りない中、災害に見舞われてその対処に追われる毎日は苦痛だろう。人手が増えることは、仮にそれが素人であったとしても助けになるのではないだろうか。ちなみに私は運動部に所属しているため女子大生の割には体力があると自分では思っているため、個人的に自分にぴったりなのはボランティア活動への参加ではないかと思っている。勿論、先生の言う通り論文を書く為でもなく、本気で再生に関わりたいという気持ちを忘れずに持っていたい。

東日本大震災に関して、今まで私が行ったのは募金だけである。その他の行動はすぐには思いつかなかった。募金は復興に直結する支援活動だと感じていたし、今もそう思っている。高校でもその他の機関でも多くの寄付金が募られていた。しかし災害があったという報道を受け、

役に立ちたいと思った人々の大抵が募金をするという事実は、即ち、多くの国民が私と同じように、自分に出来る被災地支援として募金以外に思いつかない、ということを表しているのではないだろうか。自分でも簡単に出来る支援方法を思いついたのならば、確かにまず自分自身に取り組む事も大切だが、それだけではなくその方法を広く周知することも復興に繋がるだろう。個人ではなく大勢で、国中で、被災地の農業の復興を支援していきたい。